



イヌを活用した獣害対策のために

追い払い犬 服従訓練効果測定テストマニュアル

Version 1.1.0 (2008-6-10)

兵庫県 森林動物研究センター



目次

1	目的	3
2	テスト項目と実施手順	3
2.1	評価方法	4
3	認定の基準得点	5
付録 A	認定テスト評価用紙 (例)	6

はじめに

本文書では、害獣対策犬の服従訓練成果測定テストの方法について説明する。このテストでは、基礎訓練の修得度の測定を行ない、人の指示に従い、人に危害を加えないことを確認する。本テストで基準を満たした個体は、繋留を解いての実践的な訓練へ進む。追い払い犬としての正式な認定は、実地訓練を終えて、害獣対策犬としての適性を総合的に評価した上で与えるものとする。



最初に、本テストの目的と意義について説明し、次に実際のテスト手順について紹介する。最後に、テストの評価方法について説明を加える。また巻末には付録としてテスト評価に用いるチェックシートの例を収録した。

1 目的

本テストは、イヌが害獣防除のために繋留を解かれた際に、周囲の人へ危害を与えないための準備ができていないか否かを評価する目的で実施する。評価の中心は、いわゆる「服従訓練」と呼ばれる訓練項目である。これらの訓練項目には、イヌの動きを制御するための一連の命令が含まれている。また、伏臥（フセ）などの、イヌにとって相手に対して服従するときに発現する姿勢などが含まれており、これらの訓練をすることによって、イヌの服従心を高めることができると考えられている。これにより、本テストはイヌの制御性と安全性（人に対する服従性）を確認するものである。

2 テスト項目と実施手順

原則として、テストされるイヌとその飼主、テストの指導者、複数のテスト評定者で実施することとする。ここでは、テストの指導と評価を兼任しても良いものとする。指導者は、事前にテストの概要を飼主に説明し、飼主は指導者の指示に従ってテストを遂行する。飼主には、イヌが1回の命令に従わないときには、5回程度まで命令を与えて良いと説明する¹⁾。テストは図1に示したような順路を、計3回歩かせる。

1. 脚側行進²⁾（ツケ）で5-10mの距離をまっすぐ歩かせる
2. 立ち止まって、イヌを犬座（スワレ）させる
3. イヌを立たせ、脚側行進で5-10mの距離を歩かせる
4. 立ち止まって、イヌを伏臥（フセ）させる

1) 後述するが、実際の評価は4回以上命令が必要な場合は、命令に従わないものとして判定する。判定基準を上回る回数の命令を飼主に出させるのは、飼主が命令の出し惜しみをし、飼主の命令の与え方が普段と変わることが無いようにするためである。

2) 飼主の左膝の横にイヌの頭部がくるような位置を保ち、飼主の歩行にあわせてイヌを歩かせる歩行方法。一般に、脚側行進、脚側歩行、つけ、あとへ、ヒールなどの名称で呼ばれる。詳細は自主訓練マニュアルを参照。

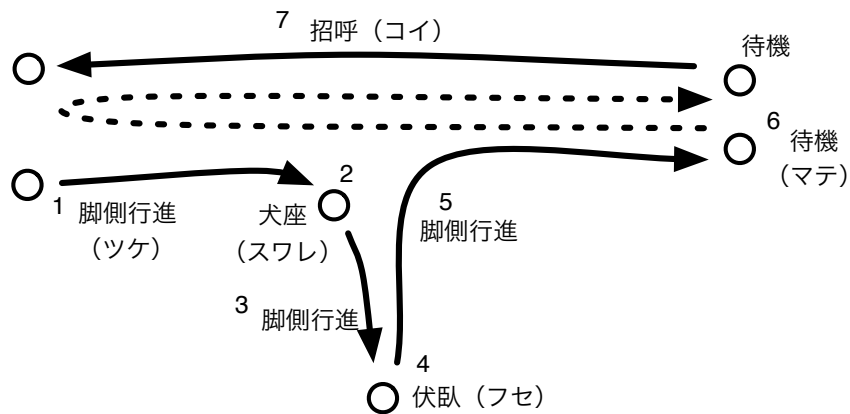


図. 1 テストの手順

5. イヌを立たせ、脚側行進で5-10mの距離を歩かせる。途中で90度の方向転換をさせ、さらに5-10mの距離を歩かせる
6. 立ち止まって、イヌを犬座か伏臥の状態で停止（マテ）させ、飼主はイヌから5-10m程度離れる。少し間をおいてから、飼主はイヌのもとへ戻る
7. イヌを犬座か伏臥の状態で停止（マテ）させ、飼主はイヌから5-10m程度離れて、イヌの方を向いて招呼（コイ）する

……以上の一連の作業を3回行なう。

2.1 評価方法

評価者は、各命令に対するイヌの反応を、チェックシートに基づいて評価する。犬座、伏臥、停止、招呼については命令に対するイヌの反応を、(○) 1回の命令にすみやかに従う、(△) 3回以内の命令で従う、(×) 命令に従わないまたは4回以上の命令が必要、の3段階に評価する(図2)。これらの行動は、3回の試行に対しておのおの評価する。

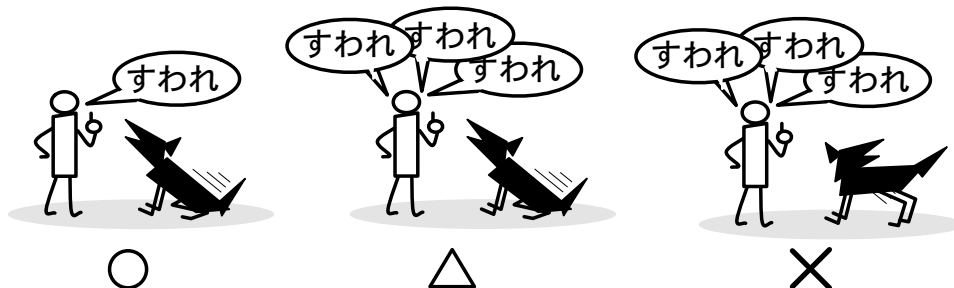


図. 2 犬座、伏臥、停止、招呼の評価方法

脚側行進と、飼主との作業協調性については、テスト全体を通して評価を行なう。どちらの評価も、イヌが好ましくない行動をとっている状態(0)から、非常に好ましい行動がみられる状態(4)までを5段階に評価する。(具体的な評点の与え方は、認定テストの評定用紙の例を参照)

3 認定の基準得点

3段階評価をする犬座、伏臥、停止、招呼については、各命令項目の評価に×（命令に従わない）が1つまでであることとする。5段階評価をする脚側行進と協調性は、どちらも評価が1以上であることとする。ただし、基準値に近い得点を獲得し、少量の追加訓練で認定の達成が見込める個体については、後日の再テストを課すことで、複数回の認定機会を設けるものとする。

付録 A 認定テスト評価用紙 (例)

評価者： _____

実施日： _____

対象個体

		第 1 試行	第 2 試行	第 3 試行
1	犬座 (すわれ)			
2	伏臥 (ふせ)			
3	停止 (まで)			
4	招呼 (こい)			
		評価		
5	脚側行進 (つけ)	0	・ 1	・ 2
			・ 3	・ 4
6	飼主との作業協調性	0	・ 1	・ 2
			・ 3	・ 4

備考：

評価項目

犬座、伏臥、待機、招呼の評価水準：

- : 1 回の命令ですみやかに従う
- △ : 何回かの命令が必要だが従う (命令は 3 回まで)
- × : 命令に従わない (命令が 3 回以上必要)

脚側行進の評価水準：

- 0 : まったく従わず、リードを引っ張って自分の行きたい方向へ歩く
- 1 : 飼主について歩くこともあるが、ほとんどリードを張って歩く
- 2 : ときおりリードが張ることはあるが、おおむね飼主について歩く
- 3 : こまめに飼主に注目し、リードが張らない距離で飼主について歩く
- 4 : 常に飼主に注目し、飼主の左側について歩く

テスト全体にわたる飼主との作業協調性の評価水準：

- 0 : 飼主をほとんど無視 (協調性なし)
- 1 : 時折飼主を見るが、他のものへの興味を優先する
- 2 : 命令時には飼主を見て行動する
- 3 : おおむね飼主を見ており、飼主の動きに合わせて行動する
- 4 : 常に飼主の動きを見て素早く反応している (高い精度で飼主と協調)

イヌを活用した害獣対策のために

追い払い犬 服従訓練成果測定テストマニュアル

Version: 1.1.0

Type set: 2008-6-10, 2:50 P.M.

作成：平成 17～19 年度 農林水産研究高度化事業成果

改訂：平成 20 年度～ 兵庫県森林動物研究センター研究事業

発行者：兵庫県 森林動物研究センター

著者：石川圭介・稲葉一明・坂田宏志

〒669-3842 兵庫県丹波市青垣町沢野 940

電話：0795-80-5500

FAX：0795-80-5506

<http://www.wmi-hyogo.jp/>

本文書は平成 17～19 年度の先端技術を活用した農林水産研究高度化事業「獣害回避のための難馴化忌避技術と生息適地への誘導手法の開発」から研究費を得て作成された。

この文書は「Creative Commons 表示-非営利 2.1 日本 (<http://creativecommons.org/licenses/by-nc/2.1/jp/>)」のライセンスで公開されています。